



長野県林業総合センター

塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

ケヤキハフクロフシ

キーワード：ケヤキ、虫えい害虫、アブラムシ

「ケヤキの葉にコブがたくさんついてしまって困っている。このコブは人にも悪いものではないか。」という問い合わせがありました。このコブの正体は、はケヤキハフクロフシという虫えい(虫こぶ)害虫によるものでした。

虫えいと虫えい害虫

「虫えい(虫こぶ・ゴール)」は、昆虫(タマバエ、タマバチ、アブラムシなど)やダニ類が植物に寄生することで、植物の葉、茎、芽、花、実などが異常に肥大、または縮小しコブ状、袋状などになったものです。

虫えい昆虫としては、クリの新芽に寄生して枝を枯らしてしまうクリタマバチやマツ針葉に寄生し枯らしてしまうマツバノタマバエなどの害虫が有名ですが、ヌルデにアブラムシがつくる虫えいは「五倍子」と呼ばれ染料に利用されて人間の役に立っているものもあります。



養賢堂「緑化木・林木の害虫」より
クリタマバチの虫えい

ケヤキハフクロフシ(ケヤキフシアブラムシ)

5月頃、ケヤキの葉表に徳利をひっくり返したような形のコブが多数できていた場合、ケヤキハフクロフシによる被害と判断できます。ケヤキハフクロフシはアブラムシの仲間で、4月にふ化した幼虫が展開しはじめた新葉の葉裏に寄生することで、葉が凹んで葉表に虫えいが



養賢堂「緑化木・林木の害虫」より
ケヤキハフクロフシの虫えい

作られます。

また、虫えいを開けてみると、黄色の小さなアブラムシが多数観察できます。

このアブラムシは、6月になると虫えいから有翅虫が脱出して、夏期は中間寄主のタケ、ササの根で繁殖したのち、秋にケヤキに戻り越冬します。

ケヤキハフクロフシに寄生された葉は、虫えいから次第に褐変枯死します。この被害で立木が枯れることはありませんが、大量に発生すると美観をそこないます。

担当者 育林部 岡田充弘